

平成 30 年度 国語 「国語表現」 シラバス

科目名	国語表現	学年	2・3年
単位数	4単位	留意点	「国語総合」履修後の選択科目である。表現学習の全課程をとらえて、コミュニケーションの総合的な力を身につける。
選択・必修	選択		
教科書	国語表現(京都書房)		

◎科目の目標

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

◎授業計画

	単元・教材名	学習内容	配当時間
4月	ステージ1 表現のイメージをつかむ (1)話すということ (2)書くということ ステージ2 表現のスタイルを知る (1)的確に話す 1分かりやすく話すには 2聞き手を意識して話す 3紹介する	○自己紹介や日記の作成など、身近な方法を通して話すこと・書くことの基本を身につける。 ○教科書の読み方について基本的な留意事項を理解する。 ○スピーチのための事前の準備について理解し、本番の体験をとおして、その方法を学ぶ。 ○他者に何か紹介することを通して、的確に話す能力を身につける。	12
5月	ステージ2 ＊新聞のコラムの視写をして感想をまとめる(年間を通して視写に取り組んでみる)。 (3)意見文を書く 1意見文とは 2どのようにして意見をもつのか 3意見文の基本構成	◎表現学習を始めるにあたり、学習の意義や方法や技術を確認するとともに、学習への動機づけを行う。 ◎「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い、自己の表現能力の実態を把握する。 ◎自己の意見をしっかり伝え、他者の理解や共感を得ることのできる文章力を身につける。	16
6月	読書感想文を書こう 創作文を書こう ステージ5 創作文を書こう (1)詩歌をつくる (2)随想を書く 心ときめきするもの(枕草子) 安っぽい飴の色(江國香織) (3)小説を書く 『夢十夜』より「第一夜」(夏目漱石)	◎読書を通して感じたことや考えたことをまとめる。 ◎言葉による創作の基本として詩歌を作り、創作の喜びを味わうことにする。 ○表現の幅を広げるために韻文の規則を踏まえて創作する。 ○創作の二次段階として随想を書き、自己表現の世界を広げる。 ○創作の最終段階として小説を書くことに挑戦する。	16
7月	履歴書・志望理由書を書こう 目的に応じた文章を適切に書く (4)通信文を書く	◎ことばの性質やことばと人間とのかかわりについて理解し、言語生活や具体的な表現活動に役立て、人間関係を維持・構築していこうとする認識を養う。	12

	1伝達の文章とは 2手紙(お礼・案内) 3呼びかけ文(依頼・連絡) 4電子メール・携帯メール	○正確に記録すること、きちんと説明することができる能力を身につける。 ○通信文には多様な種類があることを知るとともにそれぞれの手段にふさわしい文章力、表現力を身につける。 ○挨拶が人間関係や社会生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、自らの言語生活を検証してみる。 ○情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を身につける。	
8月 9月	ステージ4 表現のルーツを知る (1)言葉の歴史・文章の変遷 漢字・慣用句・ことわざ・四字熟語・ 現代用語などの語彙の意味や使用 の仕方などを学ぶ。	○漢字や語彙の学習を通し、これらを習得していく習慣を形成するとともに、日本語の特徴に関心を持ち、解釈や表現に生かそうとする意識を育てる。 ○語彙や語種、類義語などの学習を通して、日本語の歴史を考え、自らの表現力向上に生かす。	16
10月 11月	ステージ4 (2)日本語表現の特色と異文化 ステージ3 表現のテクニックを磨く (1)調査したことを発表する 1調べる 情報の収集 2要約をする 3インタビューをする 4表・グラフ・図解の利用 5プレゼンテーションをする	○敬語表現などに注目して日本語の特色について学び国際化社会における自らの表現力向上に生かす。 ○テーマを決めて情報を収集し、さまざまな表現手段を使ってそれを分かりやすく表現・発表する能力を身につける。 ○調査したことを文章にし、的確に相手に報告できる能力を身につける。	28
12月	ステージ3 (4)小論文を書く 1小論文とは 2意見を持つには— その実例 3意見を膨らませる 4小論文を書く 基本の構成 5小論文の表現	◎論文作成の手順と方法を学び、発展的な論理的文章力を育成する。 ○論文作成の手順を知り、執筆以前の過程を具体的に理解する。 ○小論文の構成のしかた、組み立てなどを学ぶとともに、実際に小論文を書くことによって総合的な文章力・表現力を身につける。 ○引用のルールやマナーについて理解し、注や参考文献の表記などの論文執筆時に必要な事項について習熟する。	20
1月 2月 3月	新聞の社説を学ぶ 1社説を視写する 2社説の構成を確認する 3社説の内容と感想 4好きな社説を発表する	◎論理的な文章作成の最後の段階として、新聞の社説を教材にして文章構成や内容の分析を行う。 ○社説の結論の導き方や見出しのつけ方などを取り上げ、自分の文章を作成するときの客観的な視点を養い自らの表現向上に生かす。	20

評価の方法

- ・評価は、定期考査や小テスト(知識・理解)を中心に、出席状況や授業への取り組み状況(関心・意欲・態度)、発言や提言(思考・判断)などを総合的に判断して行う。
- ・定期考査は、前期・後期ともに中間考査と期末考査をそれぞれ百点満点で行う。
- ・小テストは、漢字・語句に関するものや、学習内容に関連したものを実施する予定である。小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・なお、年間授業時間数の1/3以上を欠席すると、単位を認定しないので注意すること。